

推 薦 書

石原照敏会員の研究は、実態分析と政策研究の両面にわたってなされ、その領域は、農業地理学・観光地理学を軸としつつ、経済地理学の広い分野に及んでいる。取上げられた個別研究のテーマは、酪農業・中山間地・工業立地・観光業・産業構造・地域構造・地域政策など多面にわたり、日本とヨーロッパ（とりわけフランスとアルプス周辺）に広く題材が求められ、数多くの業績として結実した。またこれらの研究は、地理学における研究の蓄積に立脚するとともに、農学や観光学の視点を積極的に活用しており、経済地理学と隣接分野との境界領域を充実させることにも貢献するものとなった。

上記の研究成果は、経済地理学年報など主要な学会誌に発表されたほか、『フランスの地域構造と産業立地』（大明堂、1978年）、『酪農と乳業の地域形成』（古今書院、1979年）、『問題地域と国際競争』（大明堂、1996年）、『地域政策と観光開発－フランスとEUの事例研究－』（大明堂、2001年）などの著書や、『世界の地域開発』（朝倉書店、1987年）、『地域構造と地域問題』（大明堂、1989年）、『観光開発と地域振興』（古今書院、1997年）、『国際化と地域経済』（古今書院、1997年）、『新しい観光と地域社会』（古今書院、2000年）といった編著にまとめられ、学会に刺激を与えてきた。さらに、本学会におけるシンポジウム・フォーラム・ラウンドテーブルなどにおいて、つねに積極的な活動をされた。

同会員は、香川大学・岡山大学・阪南大学で、教育・研究に従事され、多くの後進を育成された。また、関西支部の幹事・代表幹事として、支部の研究活動を支えるほか、大学の枠を越えて後進の研究者への支援を積極的に行い、若手研究者の育成にも尽力された。同会員は1932年生まれで、本学会の会員歴は半世紀を超える。また、関西支部創設以来、中心的メンバーの1人として支部活動の活性化に寄与してきた。この間、本学会の役員として、幹事（1963～1976年度、1979～1981年度）、代表幹事（1977～1978年度）、評議員（1985～1987年度、2000～2003年度）、会計監査（1982～1984年度、1988～1990年度、1994～1996年度）、関西支部長（1991～1993年度）を務められ、学会運営に多大の貢献をされた。

以上の石原照敏会員の功績は、本学会の名誉会員にふさわしいものであり、ここに名誉会員として推薦する。

2008－09年度経済地理学会名誉会員推薦委員会
委員長 富田 和暁